

2026 年度（令和 8 年度）

事業計画書



学校法人
樟蔭学園
SHOIN GAKUEN

2026（令和 8）年度事業計画の策定にあたって

2026(令和 8)年度の事業計画を公表するにあたり、ご挨拶申し上げます。

今、わが国の高等教育を取り巻く環境は、歴史的な転換点にあります。18 歳人口は、構造的な減少が加速していきます。同時に、大阪・関西万博を経て迎える新たな時代は、デジタル技術の深化と多様な価値観の共生が不可欠な社会となりました。こうした激動の時代において、樟蔭学園は「伝統の継承」に留まるのではなく、それを「未来への力」へと昇華させるための、かつてない規模の構造改革を断行してまいります。私たちの教育の核にあるのは、学園創立以来変わることのない「高い知性と豊かな情操を兼ね備えた社会に貢献できる女性の育成」です。

大学においては、2027 年度の「教育学部」新設を皮切りに、全国唯一の強みを極める「化粧ファッション学部」への改組、学芸学部のレイトスペシャライゼーション導入による教養の拠点としての再構築、そして理系学部（「応用生物科学部（仮称）」）の設置へと繋がる大胆な再編ロードマップを推進していきます。これは、社会の需要を的確に捉え、卒業生が職場や家庭、そして地域社会において真に「人間関係の要」として活躍できる力を授けるための決意であります。また、中学校・高等学校における「主体的な探究学習」の深化、そして附属幼稚園における「健やかな根っこ」を育てる教育もまた、この一つの大きなビジョンのもとに有機的に結びついています。幼・中高・大という総合学園の強みを活かし、一人ひとりの発達段階に応じたきめ細やかな支援を徹底することで、いかなる予測困難な事態においても自律し、凛とした女性を世に送り出すことこそ、本学園の果たすべき責務であると確信しております。

本年度の事業計画書には、経営ガバナンスの強化、財務基盤の健全化、そして教育・研究活動のさらなる充実に向けた具体的な道筋を記しました。樟のように内なる輝きを放つ学生・生徒たちが、次代の希望となるよう、教職員一丸となって邁進してまいります。ステークホルダーの皆様におかれましては、樟蔭学園の新たな挑戦に、これまで以上のご理解と温かいご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

目次

2026(令和 8)年度事業計画の策定にあたって	1
I 設置する学校・学部・学科等	2
II 設置学校の将来像(長期ビジョン)	3
Shoin Visio 2030	3
第IV期中長期計画(2025 年度～2029 年度)の概要	4
III 設置学校及び法人の事業計画	5
大学	5
高校・中学	9
附属幼稚園	11
法人	12

I 設置する学校・学部・学科等

(2026 年 4 月)

○大阪樟蔭女子大学

研究科・学部・学科	学位	入学定員	収容定員	開設年度
人間科学研究科(修士課程)				
臨床心理学専攻	修士(臨床心理学)	8	16	2004(H16)年 4 月
人間栄養学専攻	修士(人間栄養学)	8	16	2005(H17)年 4 月
化粧ファッション学専攻	修士(化粧ファッション学)	10	20	2013(H25)年 4 月
大学院計		26	52	
学芸学部				
リベラルアーツ学科	学士(リベラルアーツ)	40	80	2025(R 7)年 4 月
国文学科 ※1	学士(国文学)	40	200	1949(S24)年 4 月
言語文化コミュニケーション学科	学士(言語文化学)	30	30	2026(R8)年 4 月
国際英語学科 ※1 ※2	学士(国際英語学)	—	110	2010(H22)年 4 月
心理学科 ※1	学士(心理学)	60	280	2015(H27)年 4 月
ライフプランニング学科 ※1	学士(ライフプランニング)	40	200	2007(H19)年 4 月
化粧ファッション学科	学士(被服学)	140	560	1949(S24)年 4 月
計		350	1,460	
児童教育学部				
児童教育学科 ※1	学士(児童教育学)	50	340	2009(H21)年 4 月
計		50	340	
健康栄養学部				
健康栄養学科 ※1	学士(健康栄養学)	100	520	2015(H27)年 4 月
計		100	520	
学部計		500	2,320	
大学計		526	2,372	

※1 2025 年度より収容定員削減 ※2 2026 年度募集停止

註) 名称変更を行っている学科の開設年度は、当初の学科の開設年度を記載しています。

開設年度の S は「昭和」、H は「平成」、R は「令和」を表します。

○樟蔭高等学校

設置課程等	コース	募集定員	開設年度
全日制普通科	国際文理、身体表現、総合	210 (内部: 70) (外部: 140)	1948(S23)年 4 月

○樟蔭中学校

コース	募集定員	開設年度
国際文理、総合進学、身体表現	70	1947(S22)年 4 月

○大阪樟蔭女子大学附属幼稚園

	募集定員	開設年度
3・2・1 年保育	3 歳児: 50 4 歳児・5 歳児: 若干名	1951(S26)年 4 月

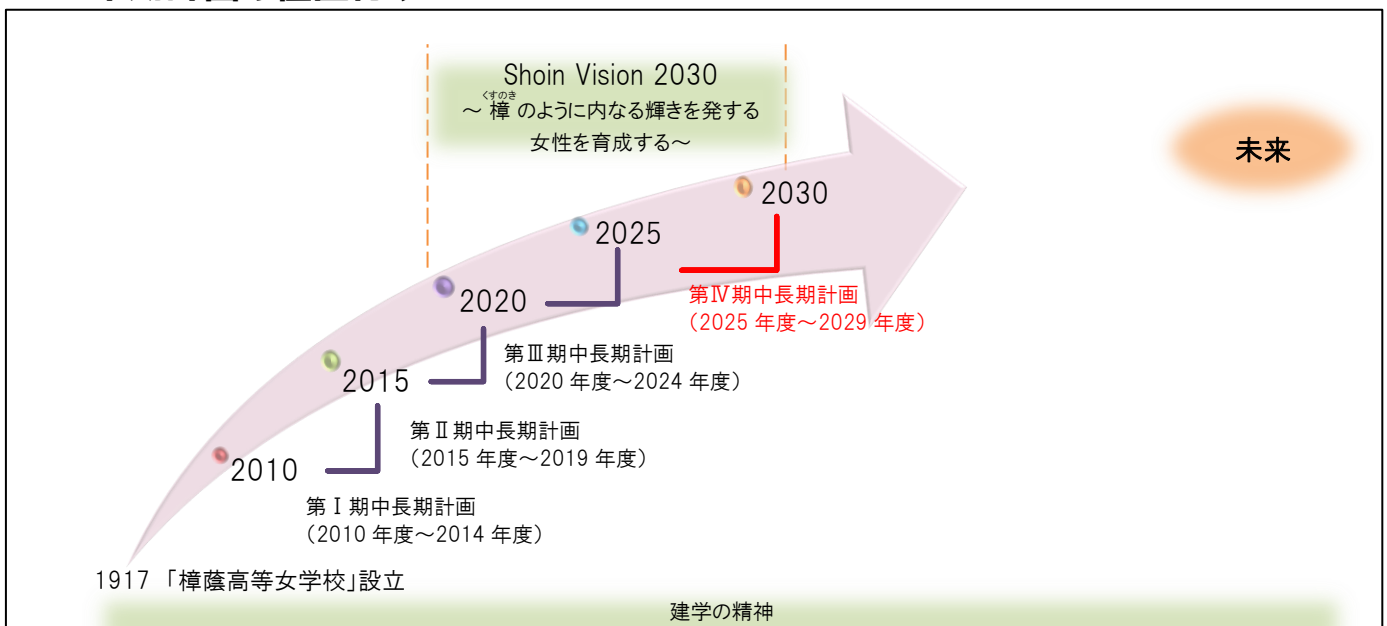
Ⅱ 設置学校の将来像（長期ビジョン）

Shoin Vision 2030

樟蔭学園が百有余年の歴史の中で育て上げてきたものの根幹は、学生生徒それぞれが内なるものとして培った女性としての芯、意思、またその強さであり、「樟蔭美」という価値観に集約されます。今後、建学の精神のもとに、「樟のように内なる輝きを発する女性を育てる」ことを通じて、社会の幸せのために力を発揮していける存在として在り続けます。



中期計画の位置付け



第Ⅳ期中長期計画（2025 年度～2029 年度）の概要

樟蔭学園は「高い知性と豊かな情操を備えた社会に貢献できる女性の育成」を理念に、第Ⅳ期中長期計画を策定しました。本計画では、大学・中高・幼稚園・法人の各部門において、教育改革、研究活動の強化、学生支援の充実、ブランド力向上、財務改善、キャンパス整備などを推進します。特に、学園の伝統を生かした女子教育の深化、AI 活用、国際化対応、地域連携、持続可能な経営基盤の強化に重点を置きます。大学では組織改革やキャリア支援を進め、中高では学力向上と進路実現を強化します。幼稚園は教育の質向上や子育て支援を拡充し、法人はブランディングと経営基盤の強化を図ります。「Shoin Vision 2030」のもと、時代の変化に柔軟に対応し、社会から選ばれる学園をめざします。

大学

～美 Beautiful～ 美（知性・情操・品性）を通して社会に貢献する。

2030 年に向けて、6 つのビジョンと学園全体のコンセプト「樟蔭美」を基に、地域にとって存在感のある大学をめざす。

重点項目

組織の改編・強靱化／教育改革の推進／研究活動の強化／学生支援の充実／社会連携・国際化の展開

中学・高校

～Little Lady～ 上品で、しっかりとした生活習慣と基礎学力を身につける。

高い知性と豊かな情操を内包し、自ら意志をもって行動できる女性として、激しく変化する時代に対応し、自立し、社会に貢献できる力を育成する。

重点項目

樟蔭女子教育の推進と学力の育成／魅力の強化と発信／管理運営の改善と充実

幼稚園

～「根っこ」を育てる教育～ のびやかな個性の育成と「知・情・意」を基本に、健全な人間形成の基礎を培う。

重点項目

教育の質の維持・向上／子育て支援事業の強化／運営体制の強化

法人

～Be Resilient～ 困難を乗り越え、経営力を回復させる。

総合学園として永続していくため、学園内各校が安定的に学生・生徒・園児募集ができるようシステムのアップデート及びアップグレードを不断に行い、経営基盤の強化のための総合的マネジメントを行う

重点項目

樟蔭ブランディングの強化／組織運営の改善・強化／財政運営の改善・強化／キャンパスの整備・最適化

Ⅲ 設置学校及び法人の事業計画

【大学】

重点項目 1：組織の改編・強靱化

No	取組テーマ	No	アクション(目標のKPI的行動)	2026年度事業計画
1	学部・学科構成の改編	1	新学部・学科設置	【理系学部の設置認可申請に向けての始動】 「新学部設置準備委員会」を拡大し、具体的に、育成する人材像、カリキュラム、人事について検討を加速、推進する。 後日申請する際の根拠書類とは別に、構想の理系学部のニーズ等に関して、一部協力高校を対象にパイロットテスト的にマーケティング調査を実施する。 理系学部設置、及びその前段階の改組を一連の大学の成長戦略として、第一段階広報を展開する。
		2	既存学部・学科の再編	【2027年度新学部設置に係る届出】 児童教育学部児童教育学科を改組し、2027年度教育学部子ども教育学科を設置することについて、文部科学省に届出を行う(2026.4)。 【2028年度新学部設置・現行学部再編に係る事前準備】 稀少価値ある経営資源としての学芸学部化粧ファッション学科について、その強みを持続的優位として経営のパフォーマンスを上げるため、学部(化粧ファッション学部)として独立させ、同時に、学芸学部・レイトスペシャライゼーションを導入し学部再編することについて、文部科学省に事前相談を行う。
2	学長のリーダーシップを支える組織体制の確立	1	副学長による学長補佐体制の構築	【副学長体制の再編】 新学長就任、副学長が3名から2名となる中、副学長体制再編として、所掌分野(機能性)の再整理を行いつつ、戦略推進者となるべく副学長の「明確なKPI付きプロジェクト(＝宣誓目標)」を設定する。
		2	学部長による学部マネジメントの強化	【学部長体制の強化】 大学運営責任を負う教学管理職として、学部長の権限を再整理しつつ、戦略推進者となるべく学部長の「明確なKPI付きプロジェクト(＝宣誓目標)」を設定する。 規模を考慮した学部長手当額を再検討する。
3	教職協働の実質化	1	大学経営やマネジメント層への参画推進の実質化	【事務職員管理職の委員会役割の明確化】 事務職員管理職の出席会議体(委員会等)を整理し、役割遂行状況を可視化(定例報告等)する。
		2	管理運営業務における教員の役割の明確化	【勤務規則の検証】 2026年度施行の「大阪樟蔭女子大学基幹教員に関する勤務規則」における各規則への対応状況等を確認、不備点等の課題を抽出し、修正余地を検討する。
4	教員構成の効率化	1	各学部における適切な人員配置	【研究活動の活性化に向けた教員活動評価制度の見直し】 2027年度に向けて、教員活動評価委員会にて評価制度全体との整合性を勘案の上、制度を改善する。 【採用人事の方法の再構築】 学科の基幹教員採用人事における手続き(書類・フロー等)を再構築し、スピーディーに内定辞退なく優秀な人材確保できる人事採用体制を再構築する。

重点項目 2 : 教育改革の推進

No	取組テーマ	No	アクション(目標のKPI的行動)	2026年度事業計画
1	学修者本位の教育の推進	1	DPをふまえた適切な成績評価・卒業認定等の遂行	【ディプロマサプリメントの導入】 __DPIに基づいて、学修者が自身の成長を確認するための学修状況の可視化及びディプロマサプリメントの導入に向けた取組を行う。
		2	望ましい教職員像の共有	【研修の実施】 __FD研修にて「学修者本位の教育」をテーマにした研修会を開催し、教職員での意識の共有を行う。 __外部機関及び他大学等の事例紹介をテーマとした研修に参加し、知見を広げる。
		3	学修者本位の教育課程の提供	【数理・DS・AI教育プログラムの拡充】 __数理・DS・AI教育プログラム応用基礎レベルへの申請を行う。 __数理・DS・AI教育プログラムの在学生への周知を図るため、履修ガイド・学生ポータルサイト等への掲示を行う。
		4	効果的な授業方法の実践	【効果的な授業方法の実践】 __PBL科目について、教職員が共通の理解ができるように、PBL科目とアクティブ・ラーニング科目について、授業方法の在り方等の共有を行う。
		5	点検・評価の実施とそれに基づく改善の実行	【点検・評価の確実な履行と適正化のための見直し】 __研究科・学部・部署間の連携をスムーズに行い、研究科・学部点検、自己点検を履行する。点検の実施に基づき出てきた改善点の見直しを行う。
2	教育課程編成システムの効率化と高度化	1	DPIに基づく適切なCPの設定とその実行	【DP及びCPの見直し・適正化】 __教育課程編成の見直しを行い、今後の改組を踏まえた教育課程の見直しを行う。 __時間割編成について、科目の重要性及び履修人数等を考慮し科目の削減、廃止に向けた取組を行う。
		2	CPをふまえた、教育課程の恒常的な改善の遂行	【諸資格課程の見直し】 __学芸学部改組に合わせて、諸資格課程のあり方について議論を進める。

重点項目 3 : 研究活動の強化

No	取組テーマ	No	アクション(目標のKPI的行動)	2026年度事業計画
1	研究活動の活性化	1	定期的な交流活動による教員の研究意欲の向上	【研究者間の交流活動の活性化】 __アカデミック・サロンを定期的に開催し、各教員の専門分野を超えて、研究に関して多岐にわたる内容を自由に議論することにより、研究モチベーションの向上を図るとともに、学科横断的なつながりを醸成する。
		2	研究成果公表機会の拡充	【研究インテグリティ・研究セキュリティに係る学内体制の整備】 __研究の国際化、オープン化に伴う新たなリスクに対応し、適切に研究が推進される体制整備を進める。 【査読付きオープンアクセス論文投稿の奨励】 __他大学における取り組み事例等、情報収集するとともに、本学で実現可能な実施案の検討を開始する。
2	研究サポート体制の充実	1	外部研究資金獲得のためのサポートの充実	【外部研究資金獲得に向けた情報提供の充実】 __外部研究資金の情報を得次第、学内イントラネット等を活用して周知する。 __科研費採択者との情報交換会等、外部研究資金へ応募促進の取り組みを実施し、科研費の応募者増加を目指す。

重点項目 4：学生支援の充実

No	取組テーマ	No	アクション(目標のKPI的行動)	2026年度事業計画
1	修学支援	1	合理的配慮を要する学生への支援の再整備	【多様な学生を支えるサポート体制の高度化】 2025年度に見直し・整備した支援制度を2026年度は、実践の質を高めるため、年度内で点検を行う。 支援担当教職員向けにケーススタディ研修を実施する。 多様な学生のニーズに対応した支援メニューを拡充する。
		2	復学者に対する支援	【復学者支援の可視化】 2024年度より、本格的にスタートした「復学者支援」の取り組み結果を可視化する。
		3	多様性を認める人権意識の啓発	【受入れ体制の仕組み化】 2027年度からの受入れに向けて、環境の整備を考える。
2	卒業後を見据えたキャリア教育	1	就職意欲を高めるためのキャリア関連イベントへの参加率の向上・活性化	【低学年への早期キャリアアプローチの強化】 現行のキャリア科目のシラバスを再考する。 【多様なニーズに応える就職サポート体制の構築】 企業や外部機関(就労移行支援事業所)との関係性を強化する。 多様な学生の就職支援に向けた教職員へのケーススタディ研修を実施する。
3	課外活動支援	1	各クラブ・同好会の活動サポート	【クラブ・同好会活動の継続支援と活性化モデルの構築】 2025年度に始動した同好会の活動をモデルケースとして支援枠組みの整備し、学生主体の課外活動がキャンパス全体に広がる仕組みを構築する。
4	修学上の経済的支援	1	外部奨学金の新規開拓	【外部奨学金の新規開拓(継続)と学内奨学金制度の見直し】 企業・財団・団体に対し新規奨学金の提供を依頼する。 既存の奨学生制度の見直しと対象者の拡大を検討する。

重点項目 5 : 社会連携・国際化の展開

No	取組テーマ	No	アクション(目標のKPI的行動)	2026年度事業計画
1	大学の持つリソースの活用	1	研究・正課の授業・課外活動による地域活動	【地域における課外活動、研究等の実施】 各学生プロジェクトの活動充実のため、プロジェクトアドバイザーとくすのき地域協創センターが連携し、関連自治体や企業と調整の上、学生が活躍できるよう活動をサポートする。 近隣自治体や企業からの要請や提案に対し、その内容に応じて、学科やクラブ等に働きかけ、学びの専門性を活かした活動の実現をサポートする。
		2	樟蔭美科学研究所を中心とした活動	【コスメティックコンソーシアムの活動推進】 樟蔭美科学研究所を拠点に各分野の第一人者を招き、Web配信によるセミナーやコスメ道場を開催し、関連企業との連携を深める。
2	地域社会への国際交流機会の提供	1	東大阪市等の企業、学校、関係行政機関との連携	【行政機関、大学との連携】 「ふせ国際化推進連絡協議会」と連携し、以下の機関との繋がりを深める。 〈行政機関〉 東大阪役所、布施警察署 留学生の安全対策等に関する情報交換を行う。 〈大学〉 近畿大学、大阪商業大学、東大阪大学 留学生に関する情報交換を行う。 〈団体〉 外国ルーツの子どもを支援する東大阪市内の団体と繋がり、多言語・多文化交流をする機会をつくる。
		2	日本語学校との連携	【日本語学校との交流会の実施】 SILC及び国際交流委員会主催による日本語学校(教育連携校)の留学生と本学の学生との交流会を企画する。 海外の日本語学校と繋がり、日本語教員を目指す学生の派遣(教育実習)について検討する。
3	グローバルキャンパスの実現	1	優秀な留学生の確保・支援	【留学生の管理】 定期的に面談を実施することにより、在留資格の更新、アルバイト、授業の出欠、学業成績等を把握し、徹底した管理を行う。 【各課との連携強化】 支援体制の充実を図るため、各課との連携をより密にし、全学を上げて留学生を支援する。
		2	学内外における国際交流の促進	【きやんふわ会の活動支援】 きやんふわ会(日本語教育課程で学ぶ学生を中心とした学生の会)による、学内外の留学生や地域在住の外国人との交流等を通して、多言語・多文化共生について考える活動を支援する。 【国際交流イベントの実施】 きやんふわ会の学生が中心となり、日本語学校、地域社会との国際交流イベントを企画する。
		3	海外留学参加者への新しい奨学金制度の策定	【留学プログラムの見直し】 留学プログラムの見直しを行い、学生が参加したくなる魅力ある留学プログラムを企画し、留学者数を増やす。

【高校・中学】

重点項目 1：樟蔭女子教育の推進と学力の育成

No	取組テーマ	No	アクション(目標のKPI的行動)	2026年度事業計画
1	「知情意」を兼ね備えたLittle Ladyの育成	1	樟蔭建学の精神、歴史伝統、樟蔭ブランド等の理解・継承	【伝統の理解】 __オリエンテーション合宿や樟蔭レッスンにより建学の精神や歴史を学び、樟蔭の伝統を理解する。
		2	生徒による主体的な学校活動の推進	【主体性の獲得】 __学校行事や部活動に積極的に参加し、主体的に行動する姿勢を身につける。
		3	社会活動等への参加奨励	【社会貢献への着目】 __地域や社会活動に関心を持ち、身近なボランティアに積極的に参加する。
		4	食育・金融教育の推進	【基礎知識の修得】 __外部講師を招いた講習等も含めて食やお金の基礎知識を学び、日常生活で意識して取り入れる。
2	自立し社会に貢献できる学力の育成	1	個別最適な学びによる学力の育成	【得意・不得意の把握】 __基礎学力を固め、自分の得意・不得意を把握し、自分に合った学習法・効果的な学び方を工夫する。また、今年度からRLP(学び直しプログラム)を導入し、前校ですべき学びを補う講座も行う。
		2	協働的な学びとしての探究活動の実施・推進	【協働する姿勢の修得】 __探究活動の基礎を学び、協働する姿勢を身につける。
		3	中高6年間を通したキャリア教育の計画実践	【将来の選択肢の把握】 __さまざまな職業を知り、将来への興味・関心を広げる。
3	激しく変化する時代を生き抜く力の育成	1	授業内探究活動の充実・My time・各コース探究活動の充実	【探究活動の基礎学習】 __探究活動の基礎を学び、興味・関心を広げる。GRIT力等の把握、生徒保護者への周知を行う。
		2	国際交流・海外研修の機会の充実、語学力の育成	【語学の基礎学習】 __異文化や海外に興味を持ち、語学学習の基礎を固める。オンライン交流や海外交流に積極的に参加させる。
		3	理系女子教育の推進	【STEAM教育の基礎学習】 __STEAM ROOMなどの活用により、理系分野に興味を持ち、STEAM教育の基礎を学ぶ。

重点項目 2 : 魅力の強化と発信

No	取組テーマ	No	アクション(目標のKPI的行動)	2026年度事業計画
1	魅力あるコース・選択科目の設定・発信	1	中高生のニーズに合ったコース・選択科目の設定	【各コースの情報発信】 __令和8年度入学生より開設した情報表現コース、美術表現コースについてより充実した発信をする。
		2	コースごとの中高各学年到達目標の設定・実施	【目標と計画の策定】 __各コースの特色や到達目標を明確にし、計画を策定する。
		3	中高生の興味・関心を深める学びへの工夫	【生徒の関心の養成】 __各授業で探究的な学びを取り入れ、生徒の関心を引き出す。
2	個性尊重に立つ進路の実現	1	個々の生徒に寄り添う支援体制	【生活学習ノートの活用】 __生活学習ノートを活用し、生徒の状況を把握する体制を整える。
		2	CS制度の効率的・効果的運用	【課題と改善点の整理】 __CSクラス制度の現状分析を行い、課題や改善点を整理する。
		3	多様な進路希望実現	【進路支援の体制強化】 __進学講座や総合型選抜対策を強化し、進路支援の基盤を整える。
3	効率的な広報活動と志願者増への積極的な取組み	1	SNS等による魅力発信促進、強化クラブの充実	【SNS発信体制の整備】 __生徒・保護者の口コミを積極的に活用するなど、SNS発信体制をさらに充実させる。
		2	入試制度・広報活動の改善	【現状と課題の分析】 __入試制度や広報活動の現状を分析し、課題を明確にする。学校・塾への取組みを強化する。
		3	奨励生制度の積極的な運用	【制度適用基準の整備】 __成績優秀者やスポーツ等の優待制度を見直し、適用基準を整備する。

重点項目 3 : 管理運営の改善と充実

No	取組テーマ	No	アクション(目標のKPI的行動)	2026年度事業計画
1	組織内の有機的・能動的連携	1	運営委員会、各分掌・学年・教科会議の活性化	【達成目標の設定】 __各会議の目的を明確化し、達成指標を設定する。
		2	ボトムアップの提案、トップダウンによる実施	【ボトムアップ体制の充実】 __教職員からの提案を積極的に具現化する。
		3	樟蔭学園内の情報共有・連携協力	【情報共有ツールの統一化】 __情報共有の方針を整理し、共有ツールを統一する。
2	教職員の資質の向上	1	外部評価等の積極的な活用、計画見直しへの反映	【調査方法の見直し】 __生徒・保護者アンケートの実施方法を見直し、より効果的な調査を行う。
		2	生徒・保護者に対する迅速丁寧な対応	【クレーム対応事例の共有体制構築】 __クレーム対応の事例を収集し、教職員間で共有する体制を整える。
		3	最先端の教育的知見、教育方法の研究・共有	【学外組織の教育施策の調査・共有】 __国や大阪府の教育施策、他校の先進的取り組みを調査・共有する。
		4	社会の変化に対応できる研修	【研修による基礎能力の向上】 __教育関係の研修を計画し、教職員の基礎的なスキルを向上させる。
3	教育環境整備・災害対策充実	1	より快適な教育環境への整備・点検	【改善点の把握】 __現状の教育環境や教職員の勤務状況を調査し、改善点を洗い出す。

【附属幼稚園】

重点項目 1：教育の質の維持・向上

No	取組テーマ	No	アクション(目標のKPI的行動)	2026年度事業計画
1	教員の質向上	1	公開保育と評価	【公開保育への準備】 __研修テーマを決め、スケジュールについて検討を始める。
2	教育課程の改善	1	体験型総合保育の内容点検・拡充	【デジタル化の推進】 __これまで紙ベースが多かったアンケートについて、Web 上でおこなえるようにする。
3	預かり保育体制の改善	1	人的、設備的な面での体制再編	【預かり保育体制の検討】 __預かり保育(長期休暇中を含む)の運営に関して、現状の環境で何をどこまでできるかについて、改めて検討する。

重点項目 2：子育て支援事業の強化

No	取組テーマ	No	アクション(目標のKPI的行動)	2026年度事業計画
1	未就園児クラスのアップグレード・アップデート	1	クラス人数、週当たりの開催回数の検討	【未就園児クラス体制の検討】 __未就園児クラスの運営に関して、現状の環境で何をどこまでできるかについて、改めて検討する。
2	園庭開放の促進	1	未就園児クラスへの導入を見すえた0～1歳児向けサービスの開発	【基礎資料の収集】 __地域の子どもの数の調査、幼稚園を希望する家庭の調査などを改めて行う。

重点項目 3：運営体制の強化

No	取組テーマ	No	アクション(目標のKPI的行動)	2026年度事業計画
1	安心、安全の確保	1	ICTを利用した方法	【ICT化の推進】 __幼稚園窓口での諸費用の徴収について、キャッシュレス化を推進する。
2	大学、中学・高校との連携	1	児童教育学科、児童教育コースとの関係強化	【学生ボランティアの推進】 __学生の経験値をあげるために行っているボランティアの受付を増やすために、何らかの報酬(例えば学生表彰に結びつけるなど)について検討する。
		2	各学科、コース、SILCなどとの関係強化	【英語体験の推進】 __週1回(月曜昼休み)のネイティブ教員の派遣を増やすために必要な体制などを SILC と検討する。

【法人】

重点項目 1：樟蔭ブランディングの強化

No	取組テーマ	No	アクション(目標のKPI的行動)	2026年度事業計画
1	学園各校の学びの連携	1	探究学習の推進	【探究学習プロジェクトの実施】 __ 中高においては探究学習プロジェクトチームの主導のもと、授業・コース等での探究学習を推進する。 探究学習の基本方針を具体化し、シラバス運用と担当体制を整え、継続的实施を図る。 【探究の成果発表】 __ 授業・コース等での発表をもとに、学外コンテスト等への参加を見据え、探究成果の質と発信力を高めるとともに、発表機会の充実を進める。 【探究に係る大学・関係機関連携】 __ 大学や専門機関等との連携可能性を探り、探究学習の深化や探究成果の可視化などを目指した連携を段階的に進める。
		2	AI教育の推進	【数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度の充実】 __ 2026年度学則から、数理・AI・データサイエンス教育プログラム(応用基礎レベル)を導入する。 【AIに係る研修の企画】 __ AIを活用した授業や業務改善について教職員での研修を2月に実施する。中高ではAI・デジタルリテラシーに関連する教員研修を学期ごとに実施し授業・業務改善に努める。
		3	地域と連携した教育活動の推進	【研究費活用しての地域連携推進】 __ 「女性の健康と身体変化についての教育実践 ～吸水ケア・生理用品の特性の違いから考える～」と題して、学外に向けてアンケート調査を実施する。また、協定校を中心とした地域の中高生に向けた教育実践を実施する。
		4	学修成果の可視化	【測定検査の活用による教学改善】 __ 大学においては、ディプロマ・サブメントを導入し、GPS-Academicの結果を可視化し、学修成果と連携させることを検討する。 __ 中学校・高等学校においては、引き続き非認知能力の測定を行い、学修成果との連携について研究する。
2	ステークホルダー連携	1	卒業生との連携	【卒業生企画の充実化】 __ 対象者が10年に1度参加できるホームカミングデーの企画内容の改善・充実をはかり、参加者増をめざす。 __ ホームカミングデーだけでなく、卒業生が参加できる新しい企画を検討し、卒業生が学園に帰ってくる可以增加する機会を増やす。 __ 他部署・学科が開催するイベントについて、ホームページやインスタ等にて告知しイベント参加者数を増やす。
		2	同窓会との連携	【同窓会との行事連携の強化】 __ 同窓会総会や東京支部同窓会への協力を強化し、成功に貢献する。また、地方行事として「樟蔭のつどい」を中国地域(岡山)で開催して多くの参加者を得て、同地区在住の卒業生とのつながりを強くする。 2026年は同窓会80周年、2027年は学園110周年という機をとらえ、2年連続イベントを学園と同窓会との共同で開催できるように検討する。
3	ブランド認知の浸透	1	WebやSNSによる戦略的情報発信	【公式サイト(大学)の抜本的リニューアル】 __ 公式サイトを完全リニューアルし、本学の教育・研究活動や大学としての進化を社会に対して効果的に発信する。リニューアル後は、学内体制や運用方法について整備を進め、持続的なサイト運営につなげる。 【既存広告の検討等】 __ 既存広告(懸垂幕・道頓堀大弾幕)について、不特定多数に長期的に訴求することができる広告として、継続する。
		2	学び及び研究活動の発信	【学びや研究に関する情報発信の強化および視覚的訴求】 __ 大学公式サイトにおいて、専用コンテンツを活用し、教育・研究の特色や取り組みを発信、年間5件以上を目標とする。授業動画のWeb配信を継続するとともに、大学公式サイトと連携を行う。教員紹介コンテンツでは研究力の訴求を行うため、情報の差別化を検討し進める。 【大学教員著作物(書籍・論文集等)の掲示】 __ 前年度に整理が進まなかった掲示方法や運用体制について改めて検討を行う。Webサイト以外での掲示場所や実施方法を整理したうえで、Webでの掲示も並行して検討する。
		3	樟蔭エンタープライズ㈱との連携によるオリジナル商品開発	【愛される樟蔭オリジナルグッズの開発・充実化】 __ 1点以上、どの世代の同窓生にも懐かしさを感じ、愛されるオリジナルグッズを樟蔭エンタープライズ㈱と制作し、また、学園ホームページ等に掲載し広く紹介する。

重点項目 2 : 組織運営の改善・強化

No	取組テーマ	No	アクション(目標のKPI的行動)	2026年度事業計画
1	ガバナンスの強化	1	理事・監事・評議員の役割に基づく新たな機関運営	【理事構成変更に伴う新体制の構築】 __職員理事を複数人想定して理事の職務及び決裁権限を整理し、学長理事交代による新たな理事体制のもとで、改正寄附行為の正しい運用に努めていくとともに、今後の大学の学部改組を含めた大学改革プラン実現に向け、理事会として迅速かつ責任ある意思決定を行う。
		2	中長期計画の運用	【事業報告書・事業計画書の新様式化】 __前年度履行し得なかった事業報告書・事業計画書の新様式化として、ステークホルダーを意識した内容及び見せ方にリニューアルし、編集の迅速性をも考慮した様式にする。
		3	役員及び部門トップの研修強化	【役員等への研修の実施】 __2025年度の理事研修に引き続き、 ①評議員を対象として、改正私立学校法及びこれに基づく理事会、評議員会の運営や役員等の責務等について、研修を実施する。 ②理事・監事を対象として、専門家(弁護士)による、具体的問題事例に基づいた役員の責務等についての研修を実施する。
		4	情報セキュリティの強化	【情報セキュリティに関するルール見直し】 __前年度において整理した課題をもとに、該当項目のうち1項目以上について、実務に即した運用ルールの整備を行う。 【運用状況の確認と改善】 __セキュリティスコア等の指標を活用し、システム設定および運用状況の確認・改善を継続的に実施する。
2	危機管理体制の実質化	1	防火防災対策と訓練の重点化	【防火・防災訓練の実施】 __大学・中高合同で年2回実施している防火・防災訓練において、教職員の体制を強化するとともに、想定する災害レベルを引き上げ、また仮想事象のバリエーションを検討し、より多くの学生・生徒の動員を図り、実践力を身につける。 【防火・防災知識の習得】 __防火・防災訓練に加え、教職員に向けて防災関連の情報提供や安全講習会を実施し、防災知識の向上を促進する。
		2	安全委員会・衛生委員会の充実	【衛生委員会の推進・充実化】 __教職員の健康診断とストレスチェックを確実に実施するとともに、健康診断においては問診票の送付や受診期間を改定し、より効率的な実施方法を確立する。 【安全委員会の推進・定期開催の確立】 __防火・防災訓練において、災害が調理実習中に発生するなど、より具体的な状況を想定した内容を検討する。発足3年度目となる安全委員会では、定期的にキャンパス内の設備不備や装備品の在庫確認を行い、非常時に備えた検討を継続して行う。
		3	施設設備の安全管理	【防災管理点検指摘事項の是正】 __消防用設備等点検や防火設備定期検査、防災管理点検で指摘された安全上の問題点を精査し、優先度を考慮した是正措置を講じる。
3	業務の効率化促進	1	キャリア中断防止施策の促進	【勤務形態の模索】 子育てと並行した勤務が可能となるように、新たに在宅勤務制度の制定を検討に向けた取組を行う。
		2	大学教員の就業に関する規則の見直し	【大学教員の勤務規則の再整備】 __2025年度にて整備した勤務規則における各規定の履行状況を確認し、必要に応じて規定を改正する。
		3	事務職員の就業に関する規則の見直し	【勤務形態の模索】※再掲 子育てと並行した勤務が可能となるように、新たに在宅勤務制度の制定に向けた取組を行う。
		4	DX化の推進	【定量的指標でのDXの持続的実施】 __昨年度の評価結果を踏まえ、体制や方針の見直しを行い、指標結果の向上を目指した継続的なDX推進を図る。
4	人材育成	1	職員人事評価制度再構築__成果と応報	【評価制度の順次見直し】 __過年度に検討した方向性を基に、前年度詳細化できなかった新評価基準として評価シートを改善する。

重点項目 3 : 財政運営の改善・強化

No	取組テーマ	No	アクション(目標のKPI的行動)	2026年度事業計画
1	経費支出の適正化	1	部門別独立採算制の試行	【部門毎の収支に対する意識付け】 前年度に引き続き、各部門において独立した収支状況を認識し、学生生徒募集及び不要な支出削減の検討等が必要であることを意識付けるため、教職員が現状を理解できるような資料を提示する。
		2	経費使途の見直し	【購入先における運用ルールの実施】 事業会社を通じて物品を購入する運用ルールを実施するうえで、不適切な部分は見直しを図り、適正な予算執行に繋げる。
2	人件費支出の適正化	1	退職金の見直し	【新退職金支給率の設計】 前年度は課内検討試案に留まった2027年度以降の入職者に適用する新退職金支給に係る乗率表について、あらかじめ多面的なシミュレーションを経て、成案する(それまでの無期専任在職者については2025年度現行の乗率適用を担保)。
		2	職種別人員の適正管理	【適正な人員管理】 退職者の増加による事務職員の減少を鑑み、部署による残業時間、休日出勤数の把握により、職員の配置や人数が適正であるかについて、点検し、適正化に向けて対応していく。
3	外部資金等の積極的導入	1	積極的な補助金の活用	【広範囲での補助金の情報収集及び申請】 前年度に引き続き、文部科学省からの補助金情報はもとより、他省庁等からの補助金にも目を向けて、新たな補助金を意識し、外部資金の獲得に繋げる。
		2	寄付金倍増計画の策定・履行	【事業者からの寄付金増額】 事業会社を通じ物品購入を行うことで、指定業者からの手数料増額により寄付金の増加に繋げる。 【寄付金の増収計画化】 樟蔭エンタープライス(SEP)からの寄付金増となるように、SEPの売り上げ向上に協力する。 創立120周年に向けて、新たな寄付募集制度等を検討し、試案を作成する。 ふるさと納税について検討し、方向性を出す。 振り込みのみの寄付をオンライン等での振込みが出来るように検討し可能にしてい。
		3	効果的な資産運用	【ポートフォリオの活用】 効率的に運用資産を行えるようポートフォリオを活用しながら前年度以上の運用利回りを目指す。

重点項目 4 : キャンパスの整備・最適化

No	取組テーマ	No	アクション(目標のKPI的行動)	2026年度事業計画
1	キャンパスの整備	1	施設設備修繕計画の立案と実行	【修繕計画の最適化】 施設設備の劣化状況を再評価し、安全性や緊急性の高い修繕工事を優先的に実施する。また、助成金制度を調査し、適用可能な補助金を活用する。
		2	施設設備の維持管理の徹底	【巡回点検の強化とデータ化】 定期的な巡回点検を強化し、施設設備の劣化や異常を早期に発見し、是正措置を講じる。点検記録はデータベース化して蓄積する。
2	環境整備の強化	1	満足度の高い空間の整備	【各調査のフィードバック対応】 関係部門との連携を強化し、共有された学生・生徒の意見をもとに、具体的な要望や課題を把握し、キャンパス環境の改善を図る。
3	遊休不動産の売却	1	閑屋キャンパスの売却	【閑屋キャンパスの売却推進】 行政と連携し、教育・文化施設、産学連携拠点等の公益性の高い事業を推進できる売却先を特定する。
		2	樟南園、樟蔭寮の売却	【樟南園の売却または活用推進】 東側境界の未確定部分は、筆界特定制度を申請済みであり、決着予定としている。境界明示後の方針について検討を進める。 【樟蔭寮の売却推進】 現状有姿のまま土地・建物の入札を実施し、2026年度内での売却を予定している。